

オマエがいるから
オレがいられるんだあ!
ありがとー!

お前が
いちばんだーッ!

ほんとは、
いつも感謝
してるんだあ!!!

もう一度
結婚しても、
君を選ぶぞお!

君ほど
サイコーの女は
いないぞお!

花子おおおお
おおおおお!
愛してるよーお!

生まれ変わっても、
一緒になるーなあああ
ああああああ!

たまには
チュー
してくれー!

オレは
遊んでないぞー!

たまには、
家に帰って
きてくれー!

毎日、
大好きだあ!

秘めた言葉を胸に、男は叫び出す。
その言葉の数々に、女は惚れ直す。



第6回 キャベツ畑の中心で 妻に愛を叫ぶ

2011.9.4 SUN

愛妻の丘 婦恋村大字田代
つまごいミラマライン北レド沿い
11:00am SAKEBI START!!

主催：日本愛妻家協会、婦恋村愛妻家聖地委員会、婦恋村
協力：婦恋村観光協会、婦恋村商工会、婦恋村農業協同組合

<http://www.kyabechu.com/>

男が、ミエとテレとタテマエとセケンターを手放すと、とてつもない愛を叫び出す!



標高1200m。広大なキャベツ畑の中のお立ち台で、男たちが愛を叫ぶ。題して「キャベチュー」。

社会現象にもなった「夫婦環境倦怠感削減実験プログラム」も、今年で、はや6年目。

すでに約300人の男たちの叫びが、奥様や彼女の心を射止めています。

ふだんは、そんな素振りも一切見せないニヒルな男たちの愛の叫び。

男がミエとテレとタテマエとセケンターを手放すとき、なんでもない丘が、「愛妻家の聖地」として降臨する!

そもそも「^{つまごい}嬌恋村」の名の由来をご存知ですか?

日本書記によると1900年前に、日本武尊(ヤマトタケルノミコト)は、この地で、弟橘姫(オトタチバナヒメ)という奥様の死を偲んで叫んだ言葉が「あずまはや」と言われます。「あずまはや」を漢字で書くと「吾嬌者耶(あずまはや)」。つまり嬌恋村の『嬌』という字は、この吾嬌者耶(あずまはや)の文字から来ていて、これが「わがつま…」吾妻郡につながります。まさに、「わが妻を愛する村」なんですね。

会場では、嬌恋村特産品ブースも立ち並び、村をあげて叫びを盛り上げます。

愛妻の丘は、嬌恋村の住民たちが心をこめてつくった広場です。「妻に愛を叫ぶ専用叫び台」もあります。植栽も施された美しい愛のホットスポットで、いまやドライブ名所でもあります。「つまごいパノラマラインの北ルート沿い」にある「愛妻の丘」の標識が目印です。

